

テーマ：観光（実践校）

空知管内 芦別市立上芦別小学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間において、芦別市の基幹産業である林業・木育について調べるとともに、地域人材を外部講師として招聘した講話等を通して、ふるさと「芦別」と自分たちとの関わりについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

自分たちの住む地域の産業について、特色や自分たちとの関わりについて調べる活動を通して、地域の活性化に携わる人々の思いや願いに気付くとともに、地域の未来のために自分たちができることについて考え、実践しようとする態度を育てる。

取組の様子

（1）課題の設定

芦別市のよいところや特徴について調べた結果として、芦別市に関する客観的なデータを提示するとともに、「市の面積の88パーセントが森林である」という点に着目させ、市の特徴を生かしたまちづくりについて探究課題を設定しました。



【キノコのコマ打ち体験の様子】

（2）情報の収集

なかそらち森林組合等の関係機関と連携した地域の外部講師による講話や「植樹祭」等の体験的な学習を通して、芦別市の産業や特色について情報を収集しました。



【植樹体験の様子】

（3）整理・分析

1人1台端末を用いて、収集した情報を整理するとともに、交流・協議して、芦別市の産業と自分たちとの関わりについて理解を深めました。



【全校総合的な学習発表会の様子】

（4）まとめ・表現

作成したスライドを用いて発表し合うことを通して、芦別市の産業についての理解を深めるとともに、ふるさと「芦別」と自分たちとの関わりについて考えることができました。発表の際に、外部講師を招待するとともに、第3学年から第6学年が集まった交流の場を設けることにより、芦別市のよさや魅力を一層知る機会となりました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・外部講師を招聘し、児童の課題に応じて、複数回体験的な学習ができる場面を位置付けました。
- ・課題について、理解を深めたり、新たな課題解決の視点を得たりできるよう、1人1台端末の共同編集機能を活用し、交流・協議を行いました。

実践の振り返り

- ・児童が設定した課題について、探究的に学習を進めたことにより、地域に対する興味・関心が高まるとともに、郷土に対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・あしべつ未来の森協同組合や、なかそらち森林組合等の関係機関と連携し、総合的な学習の時間の指導計画の充実を図ることができました。
- ・総合的な学習の時間を中心に、地域と連携し社会に開かれた教育課程の充実を進めることにより、自分たちの住んでいるまちや北海道への愛着、誇りを一層育むことが期待できます。